

『マイ・ブラザー』

2009年／アメリカ／ジム・シェリダン監督作品

戦場の後遺症、錯綜する「家族の絆」 エンディングで示される未来への光

会員 井口 宇乃 (45 期)

『マイ・ブラザー』
ブルーレイ & DVD
今冬リリース予定
発売元：ギャガ
販売元：ポニーキャニオン



この原稿の依頼を受けて、最初は「SATC2」でも観ようかと思ったのですが、さすがにLIBRAの格調にそぐわないかと思い直し、「マイ・ブラザー (BROTHERS)」を観て来ました。

この映画のテーマを一言で言うと「家族の絆」ということになるのですが、米国における出征兵士の心の病の問題や親子間の葛藤等が絡み合って、見応えのある内容になっています。

ストーリーは刑務所から出所した弟トミー（ジェイク・ギレンホール）を兄のサム（トビー・マグワイヤ）が迎えに行くところから始まります。サムとトミーは2人兄弟で母が早く亡くなったため、2人は良き理解者同士なのです。ところが、出所祝いの席上、2人の父親はトミーに辛く当たってしまいます。この父親はトミーを愛しているのですが、出来の悪い兄と比べて出来の悪い弟について説教臭いことを言うてしまうんですね。サムの妻のグレース（ナタリー・ポートマン）やサムの2人の娘達も刑務所から出てきたばかりのトミーとは距離を置いた感じで、居心地の悪さを感じるトミー。しかも、ただ1人の味方である兄のサムは米国軍人で、間もなくアフガニスタンに出征してしまいます。そして、サムの乗った戦闘機がアフガニスタンで敵に撃墜され……サムがどうなったかを知りたい方は是非映画を観てください。

一方、米国に残された家族の元にサムの戦死公報が届き、葬儀が営まれます。悲しみに打ちひしがれるグレースと2人の子ども達、そして自慢の息子を失った父親は思わずトミーに「兄さんは英雄だった。お前

が死んだら誰が悲しむのか。」と口走ってしまいますが、サムの死を境にしてトミーがどんどん変わっていきます。今までは自暴自棄になって飲んだくれていたのが、自分が兄の残した家族を守っていかねばという責任感からか、別人のように生まれ変わるのです。自分の仲間に頼んで兄の家の改造工事をしたり、グレースと2人の姪っ子達をスケートに連れ出したり。特に姪っ子の長女イザベルは妹の方がかわいいのでコンプレックスを持っているのですが、それが出来の悪い兄にコンプレックスを持っていた自分と重なって心が通じ合います。グレースも夫が死んだ心の傷をトミーの優しさによって徐々に癒されていき、2人はいつしか惹かれ合うようになっていくのですが…突然、サムがアフガニスタンで発見され、米国に緊急帰国するのです。

うれしいはずの帰国なのに、なんとなくぎくしゃくするグレース・トミー・そして子ども達。しかも、サムはアフガニスタンで深い心の傷を負い、別人のようになっていました。戦場の後遺症で家族にも優しく接することが出来なくなり、グレースとトミーの関係を疑い始めます。「愛する家族の元に戻るために地獄のようなアフガニスタンからやっとの思いで生還したはずなのに」と怒るサム、「愛する兄の家族をなんとか兄の代わりに守りたい」と頑張ったトミー、登場人物がみんな善人なのに錯綜してしまう人間関係に道は開けるのか？と不安になりますが、エンディングでは未来への光が示されます。（ハリウッド映画ってその点安心ですね。）観終わったときに心がちょっと温くなる映画なので、是非機会があったらDVDでもご覧下さい。